

令和2年度

# チャレンジする商店街活性化支援事業

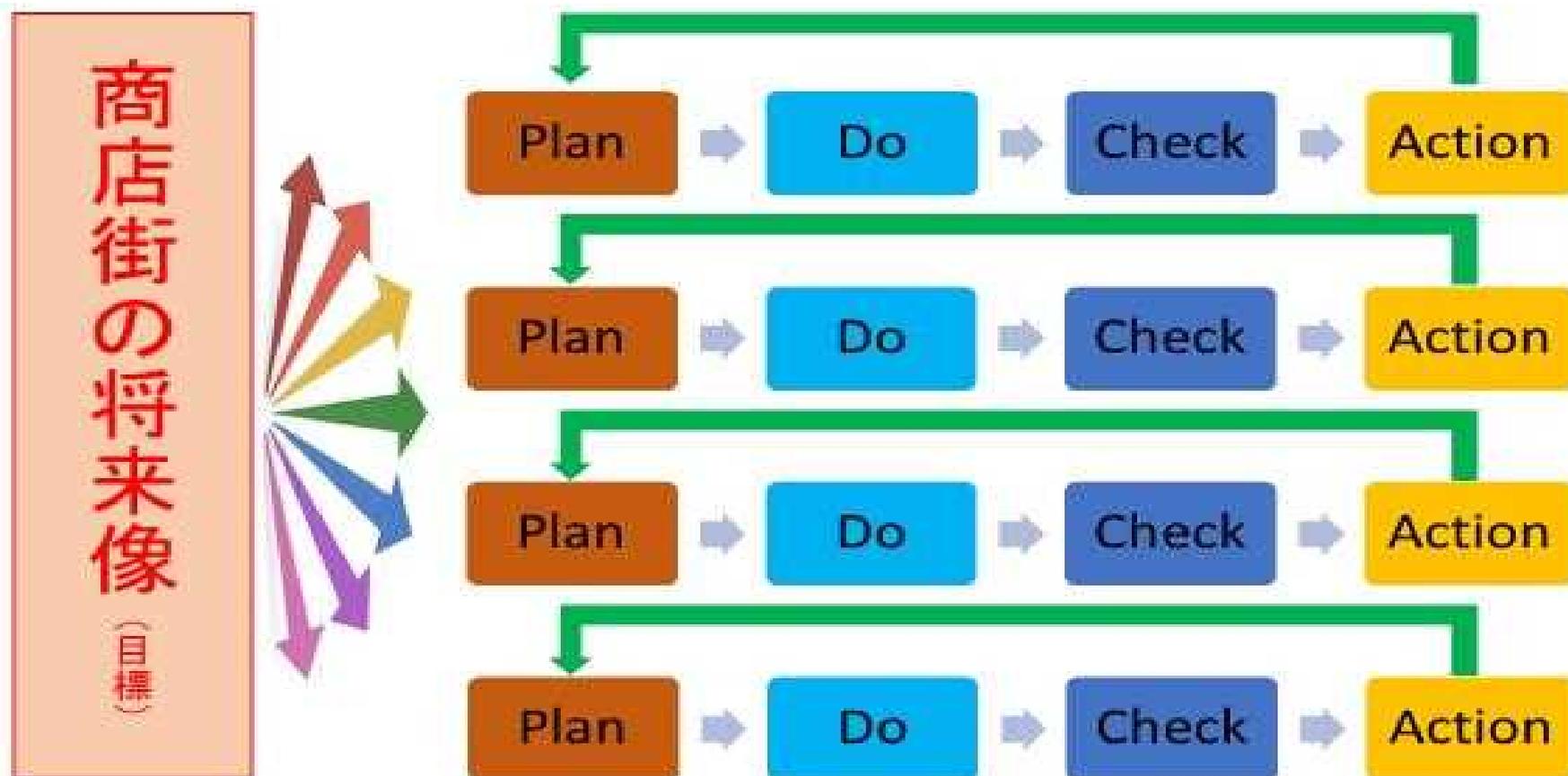
**P D C A を活用した商店街活性化の取組み**について  
(南洲門前通り会・上町南風通り会・たてばば通り会)

鹿児島県商店街振興組合連合会

# チャレンジする商店街活性化支援事業とは

チャレンジする商店街活性化支援事業とは、「**商店街の将来像**」を考え、**P D C Aサイクル**を活用した「**商店街活性化**」を支援する取組みです

## P D C Aサイクル表



# 商店街の将来像を考えるとは

なぜ、いま商店街の将来像を考える必要があるのか...

## 現状と課題

これからの高齢化、人口減少の進展を踏まえ、自治体では長期的展望に立ったまちづくりを進めようとしています。それにより各商店街の事業環境が大きく変わっていく可能性があります。

例えば、近隣で人口が減少しても高齢者数は増加するような商店街では、高齢者に向けた商品やサービスを充実させれば売上を伸ばせる可能性があります。他方、高齢者数も減少する商店街では、その限られた顧客ニーズに即した商品・サービスを提供することが売上を確保するにはより重要になるかもしれません。



## 対応の方向性

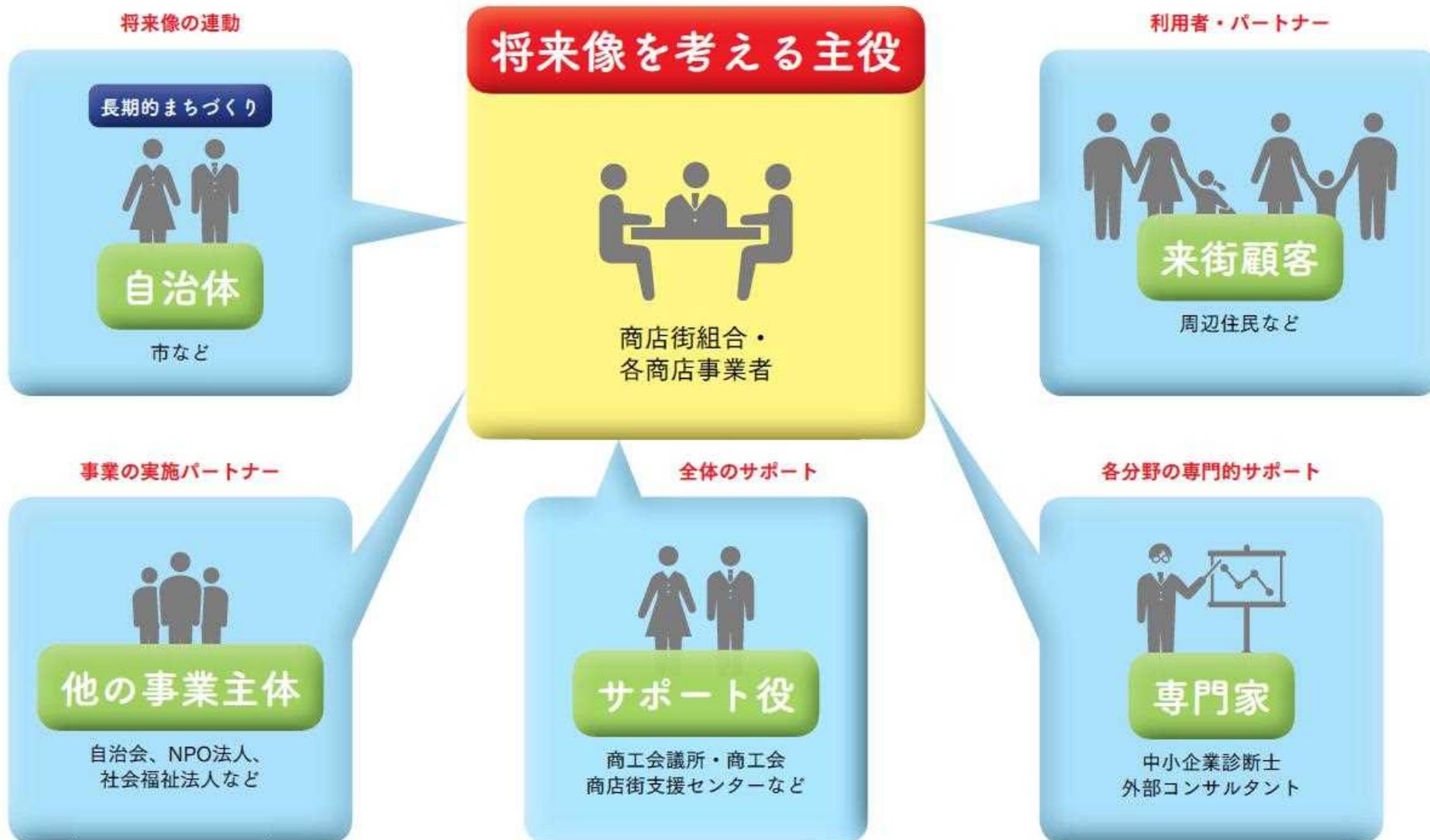
人口減少時代の商店街には、人口動向やまちづくりの展望（＝まちの将来像）を踏まえた上で、どのような顧客を対象に、どのような商品・サービスを提供していくかという計画を立て、その実現に向けて着実に取り組むことが求められます。そのためには、

- 商店街の置かれている現状（商圏人口、人口構成など）をきちんと把握した上で、
- 10年、20年先（人口動向や、まちの将来像）を見据えた長期的な視点で、
- 自治体やNPO法人、外部専門家など商店街以外の多様な主体を巻き込みながら、

「商い」と「まち」の2つの側面から、地域における商店街としての役割をいかに維持、向上させていくかを検討し、目指すべき商店街の将来像とその実現のために取り組む事業を設定していくことが重要です。

# 商店街の将来像を考える主役とは

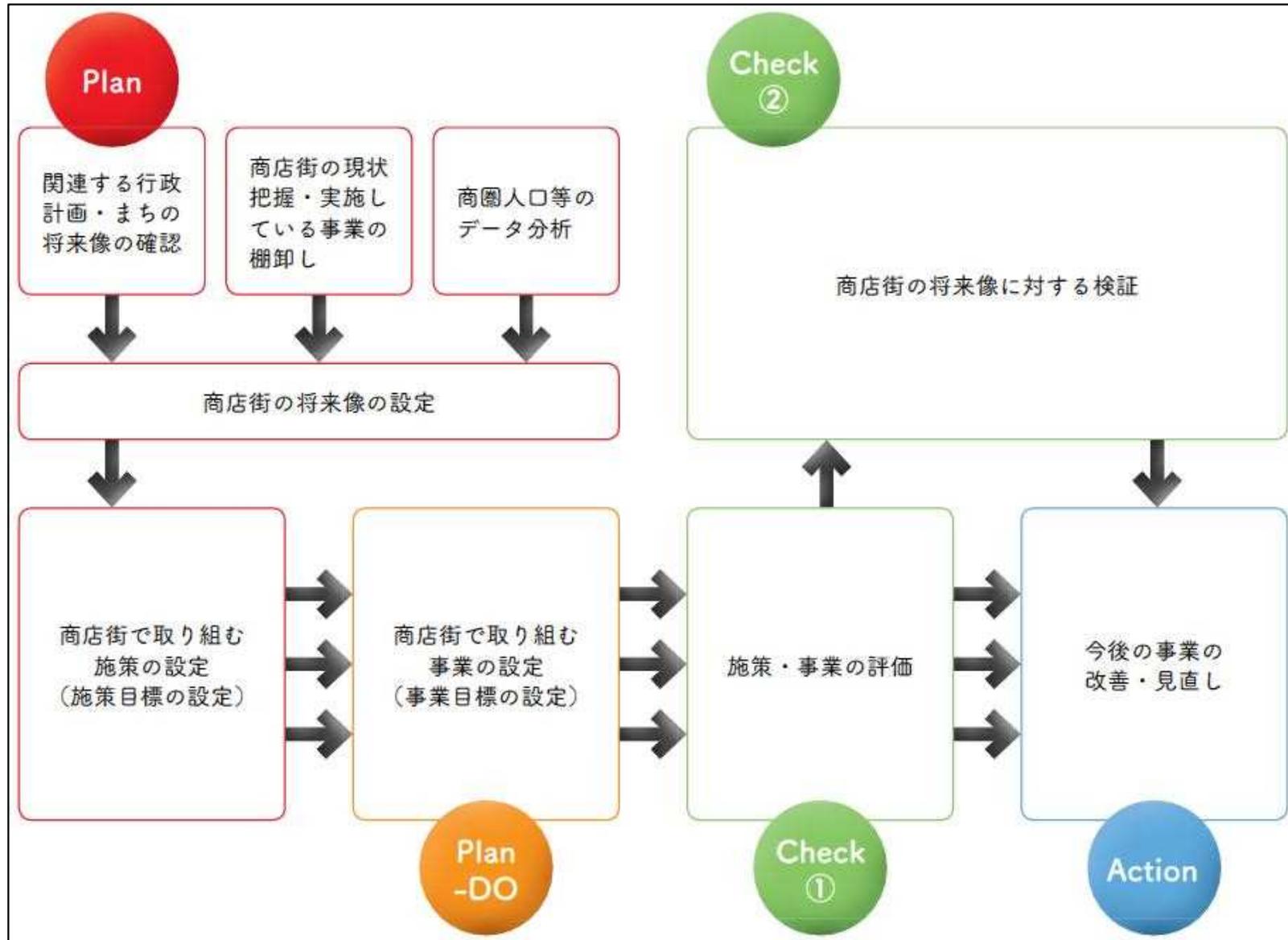
将来像を考える主役は商店街等であり、様々な関係者を巻き込んで考えることが重要です



# 商店街の将来像を共有するには

将来像の実現のための計画や行動をPDCAサイクル表に落とし込むこと

= 「将来像の見える化」で地域住民等に理解を深めてもらうことができます



# 令和2年度の取組み

令和2年度は、鹿児島駅の北側、鹿児島市上町地区の南洲神社周辺の3通り会が「商店街の将来像」の策定、P D C Aサイクル表作成に取り組みました



上町南風通り会

南洲門前通り会

たてばば通り会

# 令和2年度の取組み

取組みでは、商店街の将来像の策定、P D C Aサイクルの作成のため、  
3人のアドバイザーを4回派遣しました

## アドバイザー

北井 渉 氏

株式会社三菱総合研究所 スマートリージョン本部  
国土・地域政策グループ 主席研究員



河井 達志 氏

宇宿商店街振興組合 代表理事  
鹿児島県商店街振興組合連合会 代表理事  
全国商店街振興組合連合会 副理事長



迫 真一 氏

いづろ商店街振興組合 事務局長  
鹿児島天文館まちゼミの会



# 令和2年度の取組み

アドバイザー派遣では、「まち」や「商店街」のみならず、様々な切り口から意見交換を行い、アドバイスを行いました

## アドバイザーからの意見

- ・地域活性化とは経済活性化であり、その仕組みを考える必要がある  
様々な業態に協力を求めることも重要である
- ・地域と商店街は持ちつ持たれつ（共存）の関係にある  
互いに責任を負う役割のあり方が求められる
- ・地域に歴史的資産や病院が多いことが共通認識としてある  
商店街は高齢者に何ができるか考えてみることは重要である
- ・3つの通りの枠組みを超えた取り組みが必要である  
組織的に取り組むことが重要である
- ・昨今、商店街がライフラインを担っている  
商店街がまちづくりを行うことで商店街の活性化につながる
- ・PDCA表は、地域住民にも協力を求めるための土壌である  
活動の「見える化」に活用すべきある

# 令和2年度の取組み

取組みにより、南洲門前通り会・上町南風通り会・たてばば通り会では、3通り会の総称、商店街の将来像（活動指針）及びPDCA表を策定しました

総 称

**かんまちサンクチュアリ**

商店街の将来像（活動指針）

**上町・鹿児島発祥地 # ハジメルコトガデキルマチ**

**まちの宝を活かし、つながりとやすらぎを感じられる  
聖域(サンクチュアリ)を創りあげる**

# 令和2年度の取組み

【これまでの取組】

- ・街路灯の維持管理
- ・おもてなし(おゴドンソウ)
- ・上町サロン
- ・他コミュニティとの連携 (SWOT分析)

南洲門前通り会、上町南風通り会、たてばば通り会相互の会則を、目的を尊重。鹿兒島駅周辺まちづくりガイドライン 地域・市民主体のてづくりによるまちづくりの枠組み・ルールを活用。  
ここで生活を営む私たち自身が大切にしたい「宝」を最大限に活かす為の指針。  
・活力や賑わいの再生 ・回遊したくなるしくみをつくり多様な交流を育む  
・良好な街並み景観や身近にある自然環境を守る ・歴史や文化を後生に伝える

【商圏データ】

会員数 約180店舗 (S60年代) → 約70店舗 (R1年代)  
人口 H26年度76,233人 32,519世帯 H30年度76,136人 32,900世帯 (鹿兒島市各地区の人口と世帯数より)  
年齢構成比では、高齢人口比率が全市平均のより高い。  
桜島や錦江湾の眺望に優れ、市街地に近接した貴重な緑地や自然海岸に近い場所に位置している。  
磯地区の近代化産業遺産や石垣・石塀が残る歴史的な風格ある街並みなど、歴史、文化と自然に恵まれた風土を有している。

【まちづくりの課題】

- ・鉄道、市電、バスなど公共交通機関が集積している一方で、交通相互の連絡は十分とは言えず、回遊性も低い。中央地区、鴨池地区の官公庁施設移転等に伴う地区の活力低下が著しく、始良・吉野方面からの交通が国道10号などの限られた路線に集中することにより交通混雑が常態化し、通りの分断に繋がっている。
- ・磯地区の世界遺産、幕末期の偉人などが次々に取り上げられ、観光事業などこれらを生かした魅力ある地域づくりが求められている。小売り・サービス店舗の廃業、撤退によりまちづくりの担い手不足が進んでいる。

かんまちサンクチュアリの未来の姿

## 上町・鹿兒島発祥地 # ハジメルコトガデキルマチ

サンクチュアリ

まちの宝を活かし、つながりとやすらぎを感じられる聖域を創り上げる。



まちづくり(外的)

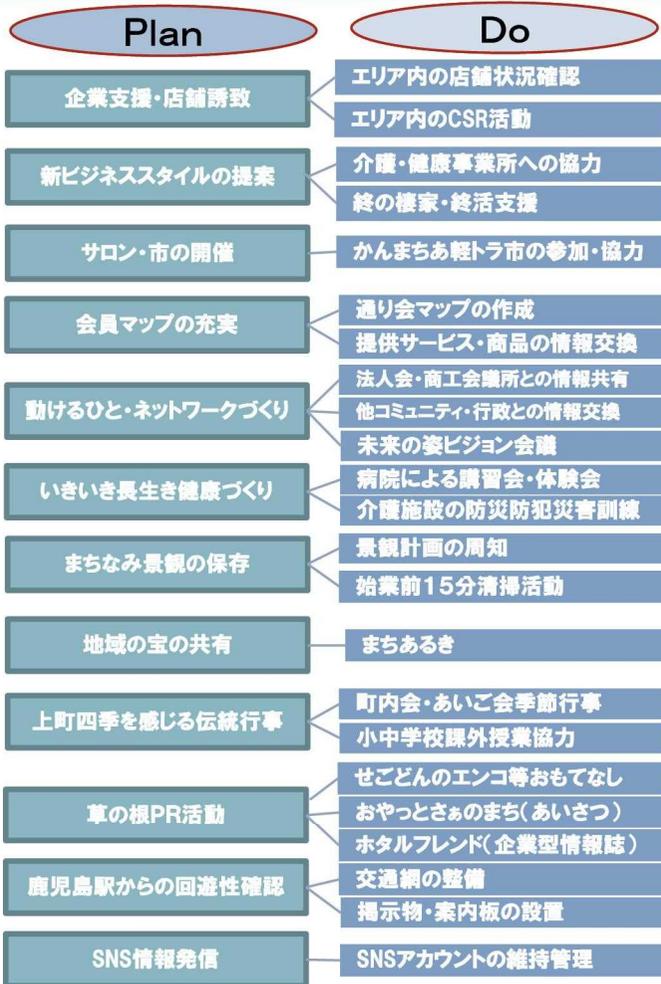
再生したいかんまち  
活力・賑わい

育みたいかんまち  
回遊・交流

まちおこし(内的)

残りたいかんまち  
歴史・文化

伝えたいかんまち  
街並み・自然環境



### Chek

・まちづくり評価  
かんまちの店舗数の減少。加入率の低下が問題。  
食品宅配便やデリバリーなどのコロナ禍に生まれた新しいビジネスが提供されていない。かんまちあ軽トラ市は、継続的に開催されているが、参加店舗が少ない。  
・まちおこし評価  
通り会のあちこちに空き店舗が点在している。会員に空き店舗の情報共有ができていない。介護施設は、まちおこし活動へ積極的に参加している。

・まちづくり評価  
行政によるこまめな案内やまちづくり団体の積極的な活動により、起爆剤となりうる環境に恵まれているにもかかわらず、活用ができていない。有効活用する話合いが少ない。  
・まちおこし評価  
一部に積極的なまちおこし活動が行われているが、情報共有ができていない。会員への情報伝達が必要となると同時に若い世代への引継ぎが必要。

・まちづくり評価  
市内の他の地域に比べて調音な街並みが維持され歴史を体感できる街並み。歴史的、文化的資産も多く素材には事欠かない。  
・まちおこし評価  
身近にある素材についての知識が不足気味。将来的に語り部やガイドをできる人物が減ってきている。学校や成人学級などで積極的に知る機会を設けている。

・まちづくり評価  
一部の通り会がSNSでの情報発信を行っているが、情報量が少なく、定期的な更新がされていない。交通網の案内は土地勘のある人は活用できる程度のもので、改善が必要。  
・まちおこし評価  
情報発信の担い手が、一部に限られている。アカウントの共有が行われていない。

・連携に合わせ年1回アンケートを実施する。  
・毎年数値化できる目標を設置しデータを収集、分析す

### Action UltimateGoal

L1・駐車場マップの作成  
・不動産会社との連携  
・CSR活動の情報共有  
L2・空き店舗の共同活用・まちゼミの開催  
・名物店舗をマスメディアに紹介  
Ug・介護施設への宅配サービス  
・Webショッピングモール作成  
・小売店舗に依存しない商店街

L1・未来の姿づくり会議  
・上町タウンマネジメントとのより高度な協働  
・行政担当部署との連携、協働  
L2・メディカルフェス(体験型総合医療紹介)  
・ヘルスケア、メンタルケアプログラム  
・こども食堂  
Ug・シルバーカフェ  
・児童クラブ等運営・医商連携

L1・景観計画の活用  
・街路灯の維持管理  
L2・休憩用ベンチの設置  
・かんまち本誌の作成  
・まちあるきコースの策定  
Ug・かんまちの歴史と文化を感じる街並み形成  
・石塀、石垣の維持、管理

L1・通り会案内記事の作成  
・観光地記事、流行品記事の作成  
・広報誌の発行  
・インスタスポット紹介  
L2・通り会、観光スポット動画作成  
・まちあるきガイド、語り部育成  
Ug・まちあるきコンサルジュ(観光拠点)の設置